

クラス	TU313	担当教員	松山有美
テーマ	共に生きるための保育 -多様な保育実践とその課題-		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『保育原理』、共著、「保育の場」 pp. 61-71、みらい、2016</li> <li>・『多文化保育・教育論』、共著、「アメリカの子育て支援の現状」 pp. 118-126、みらい、2014.</li> <li>・『北米の小さな博物館 3 - 「知」の世界遺産』、共著、「社会が担う子育て—ブルックリン子ども博物館」 pp164-173、彩流社、2014.</li> </ul>		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：共生・多様な保育・すべての子どもの最善の利益			
<p>【目的】</p> <p>本ゼミのテーマは、「共に生きる保育」です。我々は、常に他者と「共生」しているにもかかわらず、日常生活をおくるなかでどれだけ「共生していること」に自覚的でしょうか。特に、多様な背景をもつ他者との共生は、価値観の衝突や合意形成の困難さを伴いやすい行為のため、我々は知らず知らずのうちにそれらを避け、既に前提共有が出来ている他者や集団との関わりに心地よさを感じます。保育においてもそれは例外ではありません。しかし、社会が外に開けば開くほど、ヒトやモノが移動すればするほど、すべての子どもの最善の利益を希求すればするほど、この「共生」への取り組みは不可避です。本ゼミでは、共生の原理を理解した上で、共に生きるための多様な保育実践に関わりながら、そこにある課題を探ることを目的とします。</p> <p>【内容】</p> <p>以上の目的を達成するために、本ゼミでは次の事項に取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①共生とは何かを理解する。</li> <li>②多様な保育とは何かを知る。</li> <li>③すべての子どもの最善の利益を構想する</li> <li>④①～③を踏まえ、実践への展開を図る。</li> </ol> <p>【方法】</p> <p>各テーマにそった基礎知識の土台をつくる。(各自指定文献を購読し、まとめ、発表する) 各テーマにそった実践に関わる。(日本国内での実践を視察・活動等に関わる)</p> <p>【授業計画等】</p> <p>上記を踏まえ、学生と共に計画を練っていきたいと思います。現時点での留意点は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①諸外国の保育を各テーマにおいて取り上げるため、外国語での文献購読が課題となります。</li> <li>②保育現場での視察や活動等を展開します。移動手段等は実費となります。</li> </ol>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>本ゼミのテーマは、「共に生きる保育」です。①自分の「保育の当たり前」を疑うこと、②他者の「保育の当たり前」を受容すること、③その上で、自分と他者との保育に関わる対話を惜しまないこと、この①・②・③が既に出来る学生、もしくは、今できないけどチャレンジしたい学生を求めます。</p> <p>多くの文献購読と発表、たくさんの学外活動が発生します。2年に渡ってゼミ活動を優先し、すべての活動に主体的かつ自立的に取り組み、自らの2年後の結果にコミットしてください。</p> <p><u>なお、2019年度にスタートする1年目のゼミになります。私と共にゼミを創り出していく意欲と熱意をもった学生を求めます。</u></p>			